

# 秋の野菜の栽培のポイント

これから野菜の作付準備の時期に入ります。秋は気温の低下に伴い野菜の生育がゆっくりになってくるため、作業の遅れが後々大きな生育遅れにつながります。

作目や品種ごとの種や定植の適期を考慮して、作付け計画を立てましょう。

## 1 ほ場の準備

連作障害を避けるため、同じ科に属する作物を連作しないようにほ場を選定します。

秋は台風や長雨などの災害に見舞われる機会が増えます。作物は数日間滞水すると根腐れを起こすので、水が溜まりやすいほ場では、ほ場の外周に溝を切ったり、高さ10cmの高うねで栽培するようにしましょう。

## 2 土づくり

地力を維持するため、年に一度、完熟たい肥を10a当たり約2トン、作付けの1か月程度前に施用し、有機物の補給を行います。

乾燥鶏ふんは、窒素含有率が高い(窒素成分3%程度)ので、有機物としてはなく肥料として考えましょう。

## 3 育苗管理

ハウスで育苗する際は、換気をし温度が上がりにすぎないように注意します。日差しが強いときは白寒紗で遮光して、苗に強い日射が当たらないように管理しましょう。

また、育苗期間が必要以上に長くなると、老化苗となり定植後の活着が悪くなります。根の活力の高い若苗での定植を心がけ、初期生育を順調にスタートさせましょう。

## 4 病害虫対策

### (1) 害虫対策

8月から10月にかけて害虫の発生が非常に多くなります。害虫は主に

ほ場周辺の雑草で発生・増殖し、ほ場へ侵入してきます。雑草防除に努め、害虫の発生源を取り除きましょう。は種時や定植時に粒剤を処理すると、一定期間、害虫を防ぐ効果があります。

秋冬野菜に多いアブラナ科野菜を食害する害虫には、育苗中や定植後間もない時期に芯を食害するハイマダラノメイガ(シンクイムシ)(写真1)や、株の根元を噛み切るネキリムシ類(写真2)等がいます。

これらの害虫は、ほ場や年によって多発する場合があります。多発すると収量を著しく低下させますので、発生がないかこまめに観察して防除等の対策を取りましょう。

### (2) 病害対策

早期からの薬剤散布により病害の発生低減に努めましょう。

台風通過後には、風雨により株が傷ついたり、泥はねで病原菌が飛散したりするため、軟腐病・黒腐病等の病害発生の危険性が高くなります。天候が回復次第、早めに薬剤散布を行います。



写真1 ハイマダラノメイガ幼虫



写真2 カブラヤガ(ネキリムシ)の幼虫

写真 埼玉の農作物病害虫写真集

農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認し、使用基準を守るとともに、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

(大里農林振興センター農業支援部)



## お問い合わせ先

大里農林振興センター  
農業支援部  
熊谷市久保島1373-1  
TEL. 048-526-2210  
FAX. 048-526-2494



★今月のあなたの運勢★7月 // 乙女座 8/23~9/22

☆モナ・カサンドラ

【全体運】 焦って1人で動かないように。周囲との協力体制をつくれるかどうか成功の鍵。味方は多いので声をかけて  
【健康運】 ハードな運動で体を鍛えて。筋力アップの好機 【幸運の食べ物】 エダマメ